

令和4年度 小平市立小平第二小学校 学校評価報告書

学校教育目標 日本国憲法、教育基本法の精神及び人間尊重の精神を基盤に、そして小平市教育振興基本計画の理念を基本に、国際社会に貢献できる日本人、郷土を愛する市民であるという自覚を育てる。同時に、小学校教育を生涯学習の一環と捉え、学習の基礎・基本の定着を図り、互いが認め合う心と体の健康づくりのための教育を推進する。
 考える子 ◎思いやりのある子 やりぬく子

目指す学校像(ビジョン)
【目指す学校像】 「学校・地域・家庭が互いに育て合い、子ども一人一人が輝く楽しい学校」
【目指す児童・生徒像】 1. 自分の考えをもち、判断し、行動できる子 2. 相手の立場や気持ちを考え、共に生きる豊かな心をもつ子 3. 元気でたくましく、最後まで頑張る子
【目指す教員像】 1. 全体の奉仕者として自己の使命を自覚する 2. 専門職、教育のプロとして研究と修養に努める 3. 組織的な対応を意識して職務に励む 4. 健康保持や自己の働き方に留意する

前年度までの学校経営上の成果と課題
 成果: コロナ感染予防の教育環境整備に努め、ICT機器を活用し履修すべき学習内容や行事等を工夫して行うことができた。初年度のコミュニティスクール組織体制を構築し、推進することができた。
 ・課題: 学習者用端末を活用し各学年の指導内容に効果的に活用できるようにする。さらに情報モラル教育を進め、子どもたちが、より安全に有効に活用できる環境作りに取り組む。若手教員の指導力・授業力の向上。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に合った朝学習や補習授業、家庭学習を実施し学力の向上に努める。 東京ベーンシク・ドリル診断シートや全国学力学習状況調査等で児童の実態を分析し、授業改善に取り組む。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に合わせ朝学習や家庭学習、夏季休業中に補習教室を実施してきた。 全国学力調査分析や算数ベーンシク・ドリルの診断テスト結果を分析し、児童の実態把握し、授業改善に努める。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーンシクを活用して、学期ごとの算数の理解度を調査し、分析を生かして授業改善を行うことができた。 本人の体調不良でなく家族の体調不良により登校できない場合、例えば通常教室の授業だけでも希望すればオンライン配信による授業を視聴出来るよう検討いただきたい。 低学年、個人でのタブレット操作は慣れるまで時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査分析や東京ベーンシク・ドリル診断テストを活用し、児童の課題を把握し、授業や朝学習、補習等の指導内容や指導方法の工夫・改善に取り組むことができた。次年度は、学年の実態に合った家庭学習の充実にも努める。また、児童の学習状況、指導の実態を把握しながら、次年度の授業改善プランを作成し取り組んでいく。
	<ul style="list-style-type: none"> 全教科で話型、系統表、ここにことばの宝箱等を活用し言語活動に取り組む。 デジタル教科書・ミニホワイトボード・国語辞典等を積極的に活用する。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 各学級で話型、ここにことばの宝箱等を活用し言語活動に取り組むことができた。2学期以降も確実に取り組めるように声掛けをする。 デジタル教科書や学習者用端末を活用した授業実践が多く見られた。今後、情報部と連携し、学習者用端末の授業や家庭での有効活用について研修等で情報共有を図り取組の推進に努める。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で話型、ここにことばの宝箱等を活用し、言語活動の充実に取り組むことができた。次年度に向けて、話型は、各学年の実態に合わせて改善に取り組む。 授業で、デジタル教科書や学習者用端末を活用する実践が多く見られた。次年度に向けて、情報部を中心に今年度の各教科での学習者用端末実践をまとめ、全校で情報共有を図るようになる。また家庭学習での学習者用端末の活用方法について検討し、取組を推進する。 	
安全教育	<ul style="list-style-type: none"> 「安全教育プログラム」を活用し安全指導を実践する。 「SNS東京ノート」、「二小SNSルール」を活用し、児童の実態に合わせた情報モラル教育に取り組む。 「防災ノート」を計画的に活用する。 教室移動等全ての教育活動を行う空間に防災頭巾を持ち込み児童の防災意識の向上を図る。 全教職員が「二小危機対応管理マニュアル」を十分理解し、意識向上を目指す。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全指導を「安全教育プログラム」を活用して計画的に実施できた。生活夕会で、「安全教育プログラム」等を活用して教職員研修に取り組み、理解向上に努めている。 SNSやネットなど、ICTに関わる情報モラル教育を、年間指導計画を基にしなが、全学年で長期休業前に学期ごとに実施できた。 毎月の安全指導や避難訓練の際に、防災ノートを活用し取り組むことができた。引き続き、安全に自ら身を守らうとする態度や能力を身に付けられるように指導していく。 教室移動等全ての教育活動を行う空間に防災頭巾を持ち込み児童の防災意識の向上を図る。 年度当初に、全教職員が「二小危機対応管理マニュアル」について内容を確認し、非常事態に備え意識を高めた。適宜、「二小危機対応管理マニュアル」を活用した研修実施し意識の向上を図る。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 地区別別下校等を行う際に「なぜ行のか」を明確に全体で共有できた。 学習者用端末や携帯、LINE等の指導は引き続き継続が必要だと考える。 保護者や学校関係者が学校に自由に出入りできることは便利である一方、リスク管理の観点から多少不安は残るかなと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活夕会の時間に「安全教育プログラム」を活用して、教職員研修に取り組み理解向上に努めた。毎月の安全指導では、生活安全・交通安全・災害安全の内容を各学年の発達段階に応じて系統的に指導するようになった。 情報モラル教育の年間指導計画に基づいて、長期休業前は全学年が「SNS東京ノート」を活用して理解を深めたり、学習者用端末使用の二小ルールを全校で共通理解を図ったりするなど取り組むことができた。 避難訓練を地震・火災・不審者対応、緊急地震速報の活用、予告なしでの訓練等、訓練の内容や避難の方法を工夫しながら、実践的な訓練を行っていくことができた。 教室移動等全ての教育活動を行う空間に防災頭巾の持ち込みを行うことができた。次年度も実施し児童の防災意識の向上に努める。 教職員に「二小危機管理マニュアル」を配布し、職代会等で随時、緊急時に自身が果たす役割と責任を確認し理解に努めることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 「考え、議論する道徳授業」を実践する。異年齢集団や若草学級、副籍交流を計画的に実施する。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーターを中心に通常と若草の共同学習や副籍交流を計画的に進めることができた。引き続き、児童にとってよりよい交流になるように担当と連携して推進に努める。保護者会やHP等を活用し保護者の理解を広められるようにする。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 学校便りや相談室便りなどの配布物等に何かあればご相談くださいと言う文言がいつもあり、意を決して些細なことだけどずっと悩んでいた子どもの心配事を相談できる機会を得ることができました。いじめ未然防止のためによりよい共有方法を今後も模索していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育推進教員を中心にこれまでの校内研究の成果を生かしながら授業に取り組むことができた。3年探りに保護者参観での道徳授業地区公開講座を開催することができた。 特別支援教育コーディネーターを中心に通常と若草の共同学習や副籍交流を計画的に進めることができた。引き続き、保護者会やHP、便り等を活用し保護者理解に努める。
いじめ防止	<ul style="list-style-type: none"> 「二小いじめ防止対策プロジェクト」の実効性を図り、「いじめを絶対に許さない」「いじめを未然に防ぐ、早急に把握する」教員の意識を向上させる。 いじめ対策会議を月1回及び対応が必要な事案が発生した際は即時開催し対応する。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 生活夕会で、「いじめ総合対策」等を活用して、いじめ未然防止の教職員研修に取り組むことができた。引き続き、教職員のいじめ未然防止の意識向上に努める。 月ごといじめの実態を調査し、いじめの未然防止や早期発見・早期対応に取り組んでいる。いじめ対策会議を月1回及び対応が必要な事案が発生した際は即時開催し、解決に努めている。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 生活夕会で、「いじめ総合対策」等を活用して、いじめ重大事態の確認、いじめ未然防止等の教職員研修に取り組むことができた。次年度に向けて二小のいじめ防止基本方針の改訂を行い、学校全体で共通理解を図っていく。 月ごといじめの実態を調査し、いじめの未然防止や早期発見・早期対応に取り組んでいる。いじめ対策会議を月1回及び対応が必要な事案が発生した際は即時開催し、解決に努めることができた。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 月2回の校内委員会を開催し、(特別支援教室担当教員出席)医療機関等関係機関との連携や、SC・SSW・巡回指導員との情報共有を図り対応する。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援部や特別支援コーディネーターを中心に組織的に取り組むことができた。校内委員会や生活夕会等を通して、情報共有し、連携して支援や配慮の必要な子どもたちの対応につなげることができた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で難しいがクラス遊びなどの交流をしていきたい。 特別支援教室とは、相互に情報を交換できた。また、各教室を退級後に、双方へ繋げることができた。 CSとしては今後共協力できるような努力をしたい。特に運動会、学習発表会の運営に対しては児童、保護者、何よりも教師の力を評価したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援部や特別支援コーディネーターを中心に組織的に校内委員会や生活夕会等を通して、情報共有し、連携して支援や配慮の必要な子どもたちの対応につなげることができた。また子ども家庭支援センターなどの関係機関等と連携して、支援が必要な児童や不登校傾向の児童の対応を進めることができた。 次年度も、特別支援学級設置、難聴・言語障害指導通級学級拠点校、特別支援教室巡回校としての任を自覚し、小平市の特別支援教育全体の推進に貢献していく。
特色ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に沿って、年間12回の学校経営協議会を開催する。 各プロジェクトの充実と地域・保護者へ取組を周知理解を広める。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 4月からCS会議を6回実施し、各プロジェクトの取組について共通理解を図り進めることができた。またCSを中心に避難所運営準備会や150周年行事委員会が発足した。CSの各プロジェクト同様に進捗状況を把握して、円滑に取り組めるように尽力する。 地域や保護者にCSの取組をHPやCS便り等を活用して周知できた。引き続き、より理解を広められるように情報発信に努める。 	4	4		<ul style="list-style-type: none"> CS会議の各プロジェクトの取組、避難所運営準備会、創立150周年行事委員会の取組について共通理解を図り進めることができた。次年度に向けて、各プロジェクトの取組を計画的に推進できるように進捗状況を把握し、情報共有して取り組めるように努める。 地域や保護者にCS会議の各プロジェクトの取組、避難所運営準備会、創立150周年行事委員会の取組についてHPや便り等を活用して周知できた。次年度もより理解を広められるように情報発信の工夫に努める。
	<ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末やC4th校内掲示板や職員室メールを活用し会議時間短縮、校務軽減を推進する。 適当たり在校時間は最大60時間とする。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末を使用して職員会議を行うことで会議時間短縮につながった。またC4th校内掲示板の活用することで、打ち合わせ等の回数を削減できている。 在校時間について個人差が大きい。それぞれが抱えている分掌の均等化や在校時間の長い職員には声掛けを続けている。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末を活用し、会議等のペーパーレスをより一層、進めたい。 配布物のデジタル化を更に進めてほしいです。放課後子ども教室やその他チラシなどもデジタル化だと助かります。 紙の削減とメールでの連絡を増やす。お手紙の内容は要点を簡潔に連絡する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末で、職員会議を行うことで会議時間短縮やC4th校内掲示板の活用で、打ち合わせ等の回数を削減するなど校務軽減を推進できた。 月の在校時間が長い教員に声掛けをしたり医療面談を実施したりした。教員の健康保持ため積極的な休暇取得を推進した。
業務職員の働き方	<ul style="list-style-type: none"> 各部会・分掌組織の取組は、目標値を掲げるなど明確化する。 自己申告書に示した取組を各自が実践する。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 各部会・分掌組織目標値を掲げることで、計画的に進めている。 自己申告書に示した取組目標に向っての実践を随時、確認し達成できるように進行管理する。 	3	3		<ul style="list-style-type: none"> 各部会・分掌組織が、今年度の目標値について取組を評価し、課題について改善策を検討し、次年度の計画に生かすことができた。 自己申告書の取組目標を具体的にすることで、取組を随時、確認し達成できるように進行管理することができた。